

受賞を糧に さらなる前進を

市長 米本 弥一 郎



昨年度は、さまざまな分野で旭市が全国的な賞をいただきました。

まず農業では、旭市飼料用米生産者協議会・利用者協議会が「全国優良畜産経営管理技術発表会」で中央畜産会会長賞を受賞しました。国産自給飼料の安定確保を図り、水田の継承や畜産農家と稲作農家を結び付ける循環型農業の要として、長年にわたり推進してきた飼料用米の取り組みが認められたものです。

健康づくりでは、CCDプロジェクトが「健康寿命をのばそう！アワード」で厚生労働省健康・生活衛生局長優良賞を受賞しました。市と製薬会社、大学病院との官民学による連携や、市職員自らが健康プログラムを考案・実践し、市民や市内企業に広める活動が評価されました。

教育では、第一学校給食センターが「全国学校給食甲子園」で応募総

数1、051件の中から決勝に進む12団体に選ばれ、優秀賞に輝きました。地元の農産物や郷土料理を取り入れるなどの工夫や、食育への取り組みを全国に発信できました。

そして「ロケツურიズムアワード」の地域大賞です。あさひロケーションサービス協議会と旭おっぺし隊が、官民一体でロケの誘致や支援をしてきた実績や、自治体で全国初のロケ弁グランプリ開催などが評価されての受賞となりました。

これらの受賞は、多くの市民や関係者が積み重ねてきた努力の賜物であり「チーム旭」によるまちづくりが高く評価されたことを、とてもうれしく、誇りに思います。合併から20年の節目となる今年度も、この良い流れを途切れさせることなく、次世代につなげていけるよう「チーム旭」で歩みを進めていきましょう。